



【TOPICS】

- 第 41 回 技能五輪国際大会 イギリス・ロンドン大会報告・・・1
- ポリテクビジョン開催報告（北陸ブロック／中国ブロック）・・・4
- 新たな職業能力開発総合大学校紹介・・・7

【第 41 回 技能五輪国際大会 イギリス・ロンドン大会報告】

技能五輪国際大会に参加して

— 日本が 4 連覇達成！ —

平成 23 年 10 月 4 日～9 日に、技能五輪国際大会（WorldSkills Competition2011：以下 WSC）がイギリス国ロンドンを会場にして行われた。この大会は、2 年に一度開催されるもので 51 の国・地域が参加し、見学者は数万人を越える規模のものである。競技職種は、全部で 45 の職種があるが、そのうち、光ファイバ施工を中心とした課題で争われる「情報ネットワーク施工 (Information Network Cabling)」にチーフエキスパートとして参加したので、大会の様子をご紹介する。日本代表選手として森野選手（株式会社協和エクシオ）が参加し、日本は 4 連覇を達成した。

本大会では各地域から 11 か国が参加し競技が行われた。競技課題は、以下の通りである。

■大会 1 日目 10 月 5 日

- 課題 1 構内幹線配線（5 時間 20 分）
- 課題 4 スピード競技 メタル（15 分準備＋30 分競技）

■大会 2 日目 10 月 6 日

- 課題 4 スピード競技 光（2 時間準備＋45 分競技）
- 課題 5 トラブルシューティング（15 分）

スピード競技（光）は、日本が最も得意とする課題であり、確実に一位を取らないといけない競技である。この課題は全国大会でも 6 年ほど前から実施しており、国内の競争は熾烈である。それを勝ち上がってきた森野選手にとっては多少の余裕がありつつも、1 つの接続ミスが命取りになる課題であり、慎重に競技を進めていた。結果、2 位の韓国の 58 接続を大きく引き離し、森野選手は 84 接続を達成した。



課題2の様子：韓国選手（左）と森野選手（右）

■大会3日目 10月7日

課題2 ビル内配線（1時間準備+6時間）

■大会4日目 10月8日

課題3 住宅内配線（2時間）

最終日、森野選手にとって、メダルの色を決める戦いである。この住宅内配線課題は、どの大会でも一番苦勞する。というのも、住宅内の環境は各国によって異なるため、その部材もほとんどがその国内専用で、その国内でしか買えない。従って、訓練するためには輸入しなければならず、仮に輸入したとしても、日本の住宅で使用している部材とは形や機能も異なるものが多いため、施工状況をイメージしづらいのである。

しかし、森野選手は、基本的技能をしっかりと身につけているため、これらの状況にもしっかりと対応し、課題を終えた。結果、この競技でも最高得点であった。

大会を終えて

最終日を終え、最後の得点の集計である。参加国からは1名ずつのエキスパート（競技委員）が参加しており、エキスパート全員で採点を行う。また、採点結果は、その選手の国のエキスパート自身が（納得し合意した）サインをしなければ有効にならず、採点結果に対して様々なクレームや議論が巻き起こる。これをコントロールし、全ての選手に公平かつ透明性を確保するのがチーフエキスパートの役目でもある。時には全体のマネジメントのため、日本選手に不利になることも受け入れざるを得ないこともあることが辛いところでもある。

しかし、結果、森野選手は、圧倒的な強さで金メダルを獲得した。2位を18点近く引き離す（100点満点）優勝であった。500点スケールでは569点と、世界第3位の得点であった。

今回の大会を終え感じたことは、日本の情報ネットワーク施工技術、特に光施工技術は世界に誇れるものであるということだ。実際に、多くの国から日本の技術を学びたいと訓練支援の要請があった。また、日本の光施工技術をドキュメントとして配布してほしい、言うなれば「日本の光施工技術を標準化してほしい」という要請が全エキスパートからあった。この要請に応えるべく、次回大会に向け、これまでの各大会の課題や採点結果を整理し、「WSC 情報ネットワーク標準施工法 (仮)」なるものを公開していきたいと考えている。

次回2013年の大会はドイツ国ライプチヒ、2015年はブラジル (予定) で開催されることが決まっている。日本が連覇を続け、ひいては日本の情報ネットワーク施工が各国に普及していくよう願っている。



表彰式後のインタビューの様子：この映像は日本でも NHK ニュースなどでも何度も放映された。

(情報ネットワーク施工職種 チーフエキスパート 菊池 拓男)

【ポリテクビジョン開催報告 北陸ブロック】

2012 ポリテックビジョン in 新川

去る、平成24年2月18日(土)、富山県魚津市にある、北陸職業能力開発大学校において「2012 ポリテックビジョン in 新川」が、附属石川校、附属新潟校と共同で開催されました。テーマは「ものづくり未来を創れ」です。

記念講演として「ものづくり新産業革命への限りなき挑戦」と題し、三鷹光器(株)代表取締役、中村勝重氏を講師に招き、国内外の宇宙、医療分野における最先端の光学機器を作り上げてきた経過と、その中で得られた様々な事柄、これからのものづくりに対する提案など、講演して頂きました。

また、能開大、付属校の3校の学生による、応用課程開発課題、専門課程総合制作実習に関する研究発表会を開催し、活発な議論が展開されました。展示会場では開発課題、総合制作実習に限らず、新川地区産学交流コーナーとして、地元富山県の県訓、工業高校、地元企業等の展示も同時に行われました。

さらに「ものづくり競技会」として、若年者ものづくり競技会への参加を目標としたレベルアップのために、3校独自の競技会を開催しました。競技種目は「機械製図」「旋盤」「電子回路組み立て」の3種目でした。一部の競技では、県内の工業高校の生徒も選手として参加し、大学校・短大校の学生を押し、上位入賞を果たしました。

各イベントを通じ、学生達の日頃の成果を披露し、後輩への刺激とすることができ、さらに、地域の皆様に、大学校・短大校をより理解して頂くきっかけとなったと感じました。



(北陸職業能力開発大学校 山中 光定)

【ポリテックビジョン開催報告 中国ブロック】

第10回中国ポリテックビジョン開催

—知と技の融合—
カタチあるものとして思いを実現！

中国職業能力開発大学校（中国校）、福山職業能力開発短期大学校（福山校）、島根職業能力開発短期大学校（島根校）と中国ブロック5県のポリテックセンターが参加し、平成24年2月24日（金）、25日（土）の2日間に渡り第10回中国ポリテックビジョンが開催されました。近隣の大学、工業高校等からも参加していただき、大変賑やかな雰囲気で開催することができました。主な内容について簡単にご紹介させていただきます。

1. 記念講演

3つの記念講演が行われ、関係者はもちろん地域企業の方々、一般の方々からも多くの参加がありました。

(1) 手術ロボットの現状と将来展望（三石衛先生 東京大学大学院教授）

医療・福祉分野において工学が果たす役割や、手術ロボットの現状と将来展望について熱く語っていただきました。技術の果たす役割とは何かを改めて考えさせられました。

(2) 技能五輪世界一への挑戦（大竹基貴氏、早川将悟氏、地頭菌朋史氏 株式会社デンソー）

4回目の挑戦で悲願の金メダルを獲得するまでの努力、チームワーク、経験など、「ものづくり」に携わる人達に感動を与える講演でした。

(3) 小惑星探査機「はやぶさ」の挑戦（西山和孝先生 JAXA 准教授）

日本中に感動を呼び起こした「はやぶさ」。その感動の秘話を技術の側面から語っていただきました。改めてその偉大な業績に驚かされました。



手術ロボットの現状と将来展望



技能五輪世界一への挑戦



小惑星探査機「はやぶさ」の挑戦

2. 研究開発発表会および展示

中国校、福山校、島根校の学生達が取り組んだ開発課題および総合制作課題の講演発表が行われました。応用課程学生は全員が発表し、さらに専門分野別で発表するなど新しい試みで行われました。各会場とも来場者の方々と熱心に議論している様子が大変印象的でした。



研究開発発表会の様子

3. ロボット競技会

中国ポリテックビジョンといえば「ロボット大会」と言われるぐらい、地域の方々にも浸透してきています。今回は新ルールで自律ロボットが様々な障害を乗り越えてゴールを目指しました。



ロボット競技会

4. 3校ものづくりコンテスト

機械系と電子・情報系に分かれ、それぞれ「旋盤加工」と「はんだ付け」競技を開催しました。選手として選ばれた学生は、日頃学んだ技能・技術を発揮し、真剣な表情で競技に取り組んでいました。



旋盤加工競技



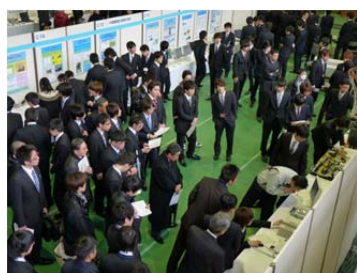
はんだ付け競技

5. ものづくり体験教室

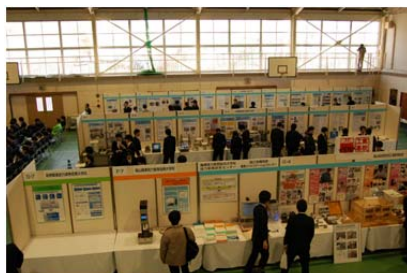
中国5県のポリテクセンターが中心となって置時計やブルブル虫、モーター製作等の親子ものづくり体験教室を開催しました。子供達は先生の指導を受けながら、熱心に取り組んでいました。この経験はきっと将来に忘れることのできない思い出になると思います。



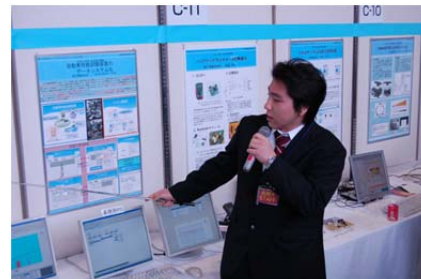
ものづくり体験教室



展示会場の様子



展示ブース



ポスターセッション

(中国職業能力開発大学校 原 圭吾)

【新たな職業能力開発総合大学校紹介】

新職業大総合課程入学式を迎える

職業能力開発総合大学校が、発祥の地小平市で我が国職業能力開発の中核機関（COE）として新しく生まれ変わることが決まり、2年前から施設整備などの準備を進めてきました。平成24年度より創設する総合課程は、学位授与機構から学士認定を受けました。学士を表す名称は、生産技術（Bachelor of Science in Manufacturing Technology）です。これは、日本国内において唯一新職業大が与えることができる称号で、英語表記を見ても国際的な活躍を期待されていることが伺えます。

新課程が学士（生産技術・Bachelor of Science in Manufacturing Technology）を授与するためのキーワードは、次のとおりです。

- ・ものづくり力（開発設計力+ものづくり力）
- ・マネジメント力（経営管理的なスキル、ヒューマンスキル）
- ・指導力（組織的にもものづくりを引き上げてゆく能力、ものづくりの波及力）
- ・イノベーション力（新たな技術、価値の探求力、創造力）
- ・グローバル対応力（語学力、社会環境対応能力）

卒業後に活躍するものづくりのステージを「プロセス・イノベーター」としており、一般大学の工学部が目指している企画・開発による革新ではなく、製造現場における技術革新を目指しています。

4専攻（定員80名）に83名の学生が全国各地から集まり、平成24年4月に総合課程第1回入学式を迎えることができました。彼らが4年後にプロセス・イノベーターとして社会へ大きく羽ばたくことを期待しています。



（職業能力開発総合大学校 和田 浩一）

編集後記

今回は 2012 年春号として、技能五輪国際大会報告、各地のポリテクビジョン開催報告並びに新職業大の情報を頂戴しました。次号は、いよいよ 2012 実践教育研究発表会 神奈川大会特集を中心に掲載する予定です。

WEB ニュース編集事務局では、皆様からの各地のポリテクビジョンや催し物に関する情報をお待ちしております。記事半ページ～1 ページ程度、写真 2 枚程度を添付していただき、以下のメールアドレスへ直接、もしくは編集事務局まで封書でお送りください。またこちらからも記事のお願いをするかもしれませんが、そのときにはご協力くださいますようお願いいたします。

例年、この時期になりますと、異動した方もいると思います。勤務先、メールアドレスの変更は、分かり次第、実践教育訓練協会事務局までメールまたは FAX にてお知らせください。



発行責任者：大竹 勉

発行：(社)実践教育訓練研究協会事務局

〒185-0021 東京都国分寺市南町 2-18-36-203

TEL 042-300-1651 FAX 042-300-1652

<http://www.jissen.or.jp/> E-mail: jissen@jissen.or.jp

編集責任者：御田村 真毅

編集事務局：関東職業能力開発大学校

〒323-0813 栃木県小山市横倉三竹 612-1

TEL・FAX 0285-31-1748

<http://www.jissen.or.jp/> E-mail: jissen@jissen.or.jp

広報委員会 Web Jissen News 編集部門：原圭吾・松葉孝治・御田村真毅

広報委員会 Home Page 編集部門：水渡博幸・新島泰宏・有田浩之・永野秀浩

広報委員会 委員長：有田浩之

発行・編集：(社) 実践教育訓練研究協会 広報委員会

JISSEN NEWS 2012 春(No.175)